

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称(製品名) : ハイソフトクリーン (油脂、分解処理剤)

会社名 : 富士化成株式会社

住所 : 〒422-8008 静岡県静岡市駿河区栗原4番43号

担当部門 : 営業部

電話番号 : 054-263-8111 FAX 番号 : 054-263-7461

作成日 : 2010年7月8日

推奨用途と使用上の制限 : 油脂汚れ落とし剤

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

特有の危険有害性

GHS分類

物理化学的危険性 : 分類基準に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分外

急性毒性 (経皮) : 区分外

急性毒性 (吸入 : 蒸気) : 対象外

皮膚腐食性 / 刺激性 : 区分2

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 : 区分2A

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 区分外

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 区分外

生殖毒性 : 分類できない

標的臓器 / 全身毒性 (単回曝露) : 分類できない

標的臓器 / 全身毒性 (反復曝露) : 分類できない

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性) : 区分2

水生環境有害性 (慢性) : 分類できない

*記載されていないものは分類できないとみなす

ラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険
危険有害性情報 飲み込むと有害のおそれ（経口）
軽度の皮膚刺激
眼刺激

取扱注意

[安全対策] 必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、曝露を避けること。
ミスト・蒸気、スプレーを吸入しないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙しないこと。取扱後はよく手を洗うこと。環境への放出は避けること。

[応急処置]

取扱後はよく手を洗うこと。
目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて用意に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
眼に入った場合、目の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
曝露またはその懸念がある場合、医師の手当て、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。

[保 管]

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、40℃を超える温度に曝露しないこと。
涼しい所／換気の良い場所で保管すること。

[廃 棄]

内容物／容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

含有成分及び含有量

成分・科学名	含有量 M%	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR 法No.	毒劇法No.
アルキルベタイン	非公開	683-10-3	非該当	非該当	非該当	非該当
アルキルエトキシサルフェート	非公開	68585-34-2	非該当	非該当	非該当	非該当
ヤシ油脂肪酸アルキ ロールアミト [®]	3~7	686-03-42-9 、11-42-2、 67-56-1	8-311、 2-302, 2-201	既存	非該当	非該当
E D T A 4 N a	非公開	64-02-8	(2) -1265	既存	非該当	非該当

クエン酸	2.0 未満	5949-29-1	(2) -1318	非該当	非該当	非該当
ポリオキシアルキレ ナルキルエーテル	2.0 未満	68439-51-0	7-97	既存	非該当	非該当
有機窒素系化合物	1.0 未満	4719-04-4	5-1080	非該当	非該当	非該当
精製水	残量	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当

4. 応急処置

以下のいずれの場合も医師の手当てを受けること。

- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の手当、診断を受けること。
気分が悪いときは、医師の手当、診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚を速やかに洗浄すること。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、当てを受けること。直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
- 目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。医師の手当、診断を受けること。気分が悪い時は、医師の手当、診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
- 予想される急性症状及び : 吸入した場合 : 咳、めまい、頭痛。
遅発性症状 : 皮膚に付着した場合 : 皮膚の乾燥
眼に入った場合 : 発赤、痛み。
飲み込んだ場合 : 腹痛、感覚鈍麻、吐き気、意識喪失、嘔吐。

5. 火災時の処置

- 消火剤 : 噴霧水、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使用してはならない消火剤 : 棒状の水（火災を拡大する恐れがある。）
火災時特有の危険有害性 : 熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏洩時の処置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置 : 曝露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。
漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行う。
付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。

着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

回収、中和 : 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
少量の場合はウエス等でふき取り、回収する。
大量の場合には盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

二次災害の防止策 : すべての着火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
漏出液を下水や側溝等に流してはならない。
廃棄物は関係法規に従い処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意（関連法規に準拠して作業すること）

取扱い

技術的対策 : 静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型（安全増型）を使用する。

適切な保護具を着けて作業すること。作業衣、靴等も導電性のものを用いる。工具は火花防止型の物を使用する。

局所排気・全体換気 : 屋外又は換気のよい場所で取り扱うこと。

安全取扱い注意事項 : 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱をしてはならない。

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。

加圧容器：使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。

使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。取り扱い後は手洗い等を十分に行う。

眼への接触を避けること。皮膚保護用クリームを使用する。

長時間及び長時間の蒸気吸入回避

眼と長時間及び繰り返し皮膚への接触開始

強酸化剤、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

保管

適切な保管条件 : 幼児の手の届かない所に置くこと。

直射日光を避け、通風の良い所に保管する。

缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水周り等の湿気の高い所での保管は避けること。

火気、熱源から遠ざけて保管する。
 40℃以上になる所には置かないこと。
 帯電防止をする。
 強酸化剤、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料：高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

8. 曝露防止及び保護処置

管理濃度 : 設定されていない。
 許容濃度（曝露限界値、
 生物学的曝露指標） : 日本産業衛生学会（2006年度版）設定されていない。

設備対策 : 設定されていない
 保護具 : 必要に応じて着用する。
 呼吸器の保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。
 手の保護具 : 必要に応じて適切な保護手袋を使用すること。
 眼の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。
 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付普通眼鏡型、ゴーグル型）
 皮膚及び身体の保護具 : 必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用すること。
 適切な衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質・危険性情報

	内溶液
状態	液体
外観	淡黄色
臭い	微かに溶剤臭
pH	7±1
融点	データなし
沸点	データなし
引火点	データなし
発火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重	0.99～1.01
溶解性	水に溶解
オクタノール／水分配係数	データなし

分解温度	データなし
その他	データなし

10. 安定性及び反応性（製品として）

安全性	通常の状態では安定
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報（内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む）

	急性毒性 (経口)	急性毒性 (経皮)	急性毒性 (吸入、 ガス)	急性毒性 (吸入、蒸 気)	急性毒性 (吸入、 粉塵)	皮膚腐食 性、刺激 性	眼に対す る重篤な 損傷、刺 激性
アルキルベタイン	アルキル ベタイン	区分5	区分5	分類対象 外	分類でき ない	分類対象 外	区分外
アルキルエトキシサ ルフエート	区分外	区分外	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外	区分2	区分2 A
ヤシ油脂肪酸アルキ ロールアミト [®]	区分5	区分外	分類対象 外	分類でき ない	分類でき ない	区分2	区分1
EDTA 4Na	区分5	分類対象 外	分類対象 外	分類でき ない	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外
クエン酸	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外	分類対象 外
ポリオキシアルキレ ナルキルエーテル	区分外	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	区分外	区分1
有機窒素系化合物	区分4	分類でき ない	分類対象 外	分類でき ない	分類対象 外	分類でき ない	区分2

	呼吸器/ 皮膚感作 性	生殖細胞 変異原性	発がん性	生殖毒性	特定標的 臓器・全 身毒性 (単回)	特定標的 臓器・全 身毒性 (反復)	吸引性呼 吸器有害 性
アルキルベタイン	分類でき ない	区分外	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない
アルキルエトキシサ ルフエート	分類でき ない	区分外	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない

ヤシ油脂肪酸アルキ ロールアミト [®]	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	区分1B	区分1	区分2	分類でき ない
EDTA4Na	分類でき ない						
クエン酸	分類対象 外						
ポリオキシアルキレ ナルキルエーテル	区分外	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない
有機窒素系化合物	分類でき ない	区分外	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない	分類でき ない

その他の情報 : (製品のデータ) 情報なし

1.2. 環境影響情報

	水生環境急性有害性	水生環境慢性有害性
アルキルベタイン	区分2	区分外
アルキルエトキシサルフェート	区分2	分類できない
ヤシ油脂肪酸アルキロールアミト [®]	区分3	区分外
EDTA4Na	区分外	区分外
クエン酸	区分外	区分外
ポリオキシアルキレナルキルエー テル	分類できない	区分外
有機窒素系化合物	区分3	区分3

1.3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方
公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告
知の上処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器は清掃してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基
準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1.4. 輸送上の注意

- 国際規則
海上規制情報 非危険物
航空規制情報 非危険物
国内規制
陸上輸送 消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
特別の安全対策	危険物は当該危険物が転落し、又は、危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずる共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

15. 適用法令

労働安全衛生法	:	名称等を通知すべき有害物 該当しない
化審法	:	該当しない
PRTR 法	:	該当しない

16. その他の情報

参考文献	原料MSDS 液化石油ガスMSDS（三愛オブリガス） 化学物質管理促進法対象物質全データ 労働安全衛生法対象物質全データ 毒物及び劇物取締法対象物質全データ（化学工業日報社）
記載内容の取扱い	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保障するものではありません。全ての化学品には未知の有重要な決定等にご利用される害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。